

大腸内視鏡検査説明書（自宅で服用）モビプレップ

氏名： _____ 様
検査日時：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ : _____ ~ _____
※検査時間の30分前までに来院ください。

- 大腸内視鏡検査は、大腸（および回腸の一部）の粘膜を内視鏡（直径約 11mm）で直接観察することにより、大腸癌や大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患を含めた大腸の病気を発見、診断するための精度の高い検査です。近年増加しつつある大腸癌の早期発見、早期治療には欠かせない検査となっています。
- 検査中病変が見つかった場合、必要に応じて生検（組織検査）を行います。生検とは病変の一部を鉗子（かんし）という処置具でつまみ、顕微鏡で観察する検査であり、より精密な検査が可能になります。
- 検査中 10mm 未満の小さな腫瘍性ポリープ（腺腫）を認めた場合、希望によりポリープの切除を行います。当院では高周波電流のような熱を加えずにポリープを切除する「コールドポリペクトミー」という方法で治療を行なっています。高周波電流を使用するポリープ切除と違い、血管の多い粘膜下層（粘膜の下に位置します）を傷つけずに粘膜の病変のみを摘除する方法なので、出血や穿孔の危険性が低く安全な方法といわれています。10mm 未満であっても、形態・性質・部位等の理由でコールドポリペクトミーの適応にならない場合もあります。
- ポリープを摘除した場合、1週間は、腹圧のかかる運動・遠方への外出や出張・長時間の運転は控えていただき、アルコールや香辛料などの刺激物、脂肪の多い食事などは避け、消化の良いものを食べるようにしてください。また、3日間は長時間の浴槽への入浴は控えてください。

《合併症について》

※ 腸管洗浄液・鎮静剤・鎮痛剤などの薬剤によるもの

- ・ 大腸に強い狭窄がある場合、腸管洗浄液を内服すると、強い腹痛や嘔吐、まれに腸管に穴が開く場合がありますので、症状のある場合には医師にご相談ください。また、普段便秘が強い方もあらかじめご相談をお願いいたします。
- ・ 検査をより楽に受けていただくために鎮静剤や鎮痛剤を用いる場合があります。以前の検査時の苦痛の程度や年齢、体格などで投与量を調節していますが、呼吸抑制や血圧の低下、気分不良を生じる場合があります。しかしながら重篤なものは極めてまれ

です。（消化器内視鏡学会の集計では薬剤による偶発症の発生頻度は0.009%、死亡率は0.0002%と報告されています）

※ 内視鏡検査にともなうもの

① 出血

生検による出血は血液をサラサラにする薬を飲まれている場合を除き、ほとんどの場合自然に止まりますが、万が一出血が強い場合にはその場で止血術（金属のクリップではさんでとめます）を行う場合もあります。

② 消化管穿孔（腸の壁に穴があくこと）

非常にまれな合併症ですが、腹部の手術や放射線治療の既往、大腸多発憩室や憩室炎のある方で、腸管の高度な癒着がある方でおこる場合があります。（消化器内視鏡学会の集計では検査による偶発症の発生頻度は0.04%、死亡は0.0005%と報告されています）

検査前日

- ・ 夕食は午後 8 時まで済ませてください。水分（お茶・水など）の制限はありませんので十分にとっていただいて結構です。
- ・ 午後 9 時にプルゼニド ____錠を内服してください。
- ・ 下記の食事は腸の中に残りやすいので検査前日（便秘がちの方は 3 日前より）食べないようにしてください。

海藻類（コンブ・わかめ・ひじき）・種のある果物および野菜・ごま・きのこ類・豆類（小豆・納豆・とうもろこしなど）・繊維質の多い野菜（キャベツ・レタス・白菜・ゴボウ・ネギなど）・トマト・こんにゃく

検査当日

- ・ 朝食はとらないでください。起床時にコップ 2～3 杯（500ml 程度）の水分をとってください。その後も制限はありませんので、のどが乾いたら水分（お茶・水・砂糖やミルクを含まない紅茶）はしっかりとっていただいて結構です。
- ・ 高血圧・心臓病・不整脈の薬は起床後すぐに服用してください。
- ・ 糖尿病の薬（インスリンを含む）は内服しないでください。
- ・ 別紙指示に従い、ガスコン（腸内ガスを除去する薬）2錠とガスモチン（腸管運動を促進する薬）2錠を内服してください。
- ・ 予約時刻の3時間前より腸管洗浄液を約1～2時間かけて飲んでいただきます。（飲み方に関しましては別紙をご参照ください）
- ・ 内服中気分不良など何か変わったことがありましたらクリニックまでご連絡ください。準備が出来ましたら検査予定時刻の30分前には来院してください。
- ・ 検査を楽に受けられるように鎮静剤（うとうとする薬）を使いますので、車やバイク、自転車での来院および検査当日の運転は避けてください。（鎮静剤の使用を希望されない場合は結構です）

飲んでもよい 水分	水（ミネラルウォーターも可） お茶（煎茶、番茶、ウーロン茶、麦茶） 紅茶（砂糖・ミルクは不可）
飲んではいけない 水分	スポーツ飲料水、乳製飲料（牛乳、飲むヨーグルト）、ジュース類、アルコール類、砂糖・固形物が入っている飲料など

検査準備

- ・ 来院後便の状態を確認します。便がきれいになっていない場合には浣腸などの追加処置を行う場合があります。
- ・ 鎮痙剤および鎮静剤・鎮痛剤（希望された方のみ）を注射し検査を開始します。脱水予防のために点滴を行います。

検査後

- 検査はおよそ15分～20分程度で終了します。鎮静剤を使用した方はベッドで休んでいただきます。
- 医師より検査結果の説明があります。
- 検査後の食事の注意や休薬されていた薬がある場合、再開日などを含め看護師から説明があります。

注意事項

- 血液をサラサラにする薬（ワーファリン、バイアスピリン、バファリン、パナルジン、プラビックス、プレタール、オパルモン、エパデールなど）を内服されている場合、服薬内容によっては生検（組織検査）、ポリープ切除などの処置が出来ず、再検査となる場合があることをご了承ください。

何かご不明な点、腸管洗浄液内服中に変わったことがありましたらクリニックまでご連絡ください。

内科・消化器内科 おくがわクリニック

TEL : 03-3724-3715